

# 令和4年度全国学力・学習状況調査結果の概要

■令和4年4月19日実施(小・中・義務教育学校全校実施)

■実施教科 小学校等 … 国語 算数 理科

中学校等 … 国語 数学 理科

## 1 教科に関する調査の状況について

### 小学校等 第6学年

教科	国語	算数	理科
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「書くこと」以外の4つの領域で、全国の平均正答率を上回った。また、記述式の問題を中心に、無解答率が全国平均より少ない傾向にある。</li> <li>○「話すこと・聞くこと」の領域において、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える力が定着している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「数と計算」、「データの活用」、「変化と関係」の領域で全国の平均正答率を上回った。また、記述式の問題においても正答率が全国平均を上回った。</li> <li>○基本的な計算問題や図形の長さを求める問題、割合に関する計算技能の正答率は全国と比較して高く、基礎・基本の定着が図られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」を柱とする領域で全国平均を上回った。水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解できている。</li> <li>○一定量の液体を適切にはかり取る器具を問う問題では、全国平均を大幅に上回った。観察、実験に関する知識及び技能の定着が図られている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「書くこと」の領域における平均正答率が全国の正答率を下回り、条件に沿って文や文章を書くことに課題がある。</li> <li>●文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることや、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●選択式の問題では、答えが条件を満たしているか確認すること、記述式の問題では、解答を完成させるために必要な条件を抜けなく記述することに課題がある。</li> <li>●プログラミングに関連した図形の問題において、図形を構成する要素に着目し、図形を判断することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「エネルギー」、「粒子」を柱とする領域における記述式の問題では、実験の結果を整理し、問題の視点で分析・解釈して、自分の考えを表現することに課題がある。</li> <li>●習得した知識及び技能を活用し、学んだことを生かして、日常生活における問題を解決していくことに課題がある。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎自分の書いた文章について、文章全体の構成や展開が明確になっているか等の観点で、具体的な感想や意見を伝え合う活動を充実させる。</li> <li>◎「頭括型」「双括型」「尾括型」といった文章構成の意味や効果を確認し、自分の考えが明確に伝わるような文章を書く活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎「本当にそれで合っているのか」等、答えを吟味する活動を取り入れることで、与えられた条件と結果を比較して論理的に考える力を育てる。</li> <li>◎図形をプログラムする活動では、描き方を指導するだけでなく、「どうすれば目的とする図形が描けるか」等、思考を伴う活動を重視する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎問題に対するまとめを行う際は、何を結論の根拠としているのかを明らかにし、自分の考えを記述したり、適切な記述例を選択したりする活動を重視する。</li> <li>◎習得した知識及び技能を授業や生活に生かし、問題解決をしたり、新たな疑問を生み出したりできるようにする。</li> </ul>

中学校等 第3学年

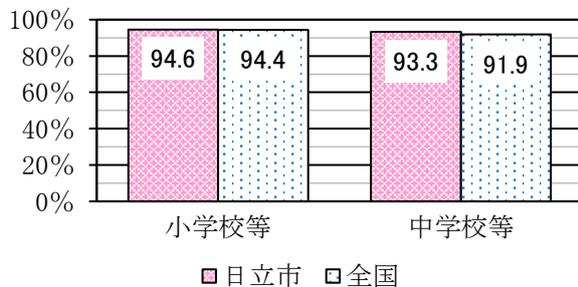
教科	国語	数学	理科
成果	<p>○「言葉の特徴や使い方に関する事項」以外の5つの領域で全国の平均正答率を上回った。また、記述式の問題の正答率も、全国の平均正答率を上回っている。</p> <p>○「書くこと」の領域において、自分の考えが伝わる文章になるように、資料等を基にして根拠を明確にして書く力が定着している。</p>	<p>○連立方程式を解く、合同条件を書くなど、基本的な「短答式」の問題の正答率は他の問題形式より高いが、全国と比較すると落ち込んでいる。</p> <p>○一次関数の変化の割合の意味や、多数の観察・多数回の試行によって得られる確率の意味を理解しているかを問う問題において、正答率が全国の平均正答率を上回った。</p>	<p>○「生命」、「地球」を柱とする2つの領域で、全国平均正答率を上回った。気圧の概念を空気の柱で説明する力を問う問題では、全国平均正答率を大幅に上回った。</p> <p>○化学変化に関する知識及び技能を活用して、分子のモデルで表した図を基に水素の燃焼を化学反応式で表す問題において、平均正答率が高かった。</p>
課題	<p>●「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域における平均正答率が、全国の平均正答率と同じであった。</p> <p>●文脈に即して漢字を正しく書くことや、比喩等の表現技法の理解、「途方に暮れた」等の事象や行為、心情を表す慣用的な語句についての理解に課題がある。</p>	<p>●全国と比較すると、基本的な計算問題を解く技能や数学的用語に対する知識に課題がある生徒が多い。</p> <p>●「図形」領域の平均正答率は全国を大きく下回った。特に証明を記述する問題においては、一貫性をもって抜けなく論理を組み立てて、正確に記述することに課題がある。</p>	<p>●「エネルギー」、「粒子」を柱とする2つの領域で、全国の平均正答率を下回った。目で見ることができない事象を扱う学習内容に苦手意識がある。</p> <p>●実験計画を検討する問題、予想や仮説と異なる結果が出る場合の探究方法について検討する問題において、考えを表現することに課題がある。</p>
改善策	<p>◎詩や物語文を扱った学習において、比喩等の基本的な表現技法について確認するとともに、実際に表現技法を使った詩や文を作り、効果について話し合う活動を充実させる。</p> <p>◎漢字について単語レベルで習熟を図るだけでなく、文や文章の中に意図的に学年別漢字配当表に示されている漢字を配置し、文脈に即して漢字を書く活動を充実させる。</p>	<p>◎基本的な計算力等が高めるため、レベルに応じた計算問題やデジタルドリル等を活用し、授業の終末や家庭学習で継続的に個別最適な学びが行えるようにする。</p> <p>◎図形の証明問題など、記述式で答える問題を解いた後は、正答の条件を示し、自己採点などを通して、自分の解答に足りないものは何か再考させ、実感をもって理解させる。</p>	<p>◎目に見えない現象について、実験を行い数値化したり、モデル図で表現して視覚化したりすることで、知識の定着を図り、自分の考えを表現する活動を重視する。</p> <p>◎予想や仮説と異なる実験の結果が出た場合、課題に対して予想や仮説が妥当であるのか、実験計画の立案が適切であったかなど、探究の過程を見直す活動を重視する。</p>

## 2 質問紙調査の状況について

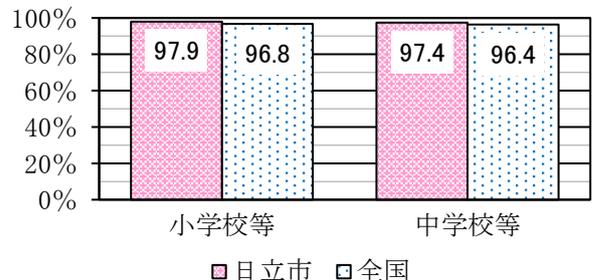
### 生活習慣、規範意識

朝食を毎日食べている児童生徒及びいじめはどんな理由があってもいけないことだと考えている児童生徒の割合は、全国の割合よりも高い。

朝食を毎日食べていますか。(児童生徒質問紙)



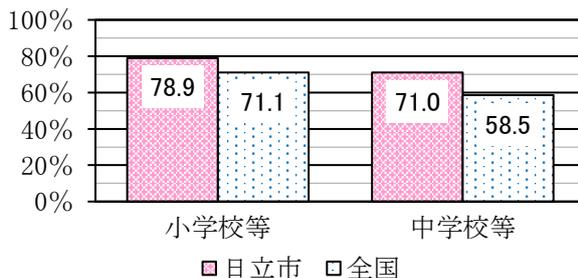
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。(児童生徒質問紙)



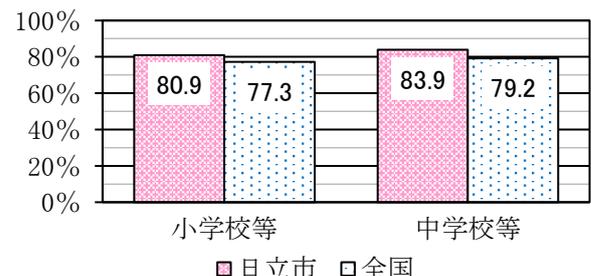
### 学習習慣

家で自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒及び授業において課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童生徒の割合は、全国の割合よりも高い。

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(児童生徒質問紙)



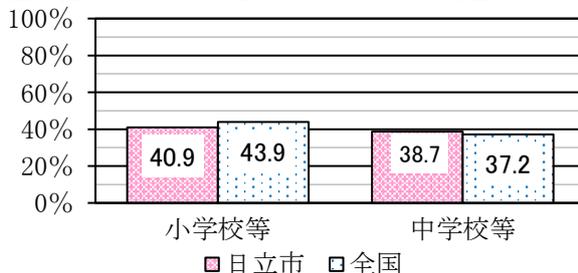
前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。(児童生徒質問紙)



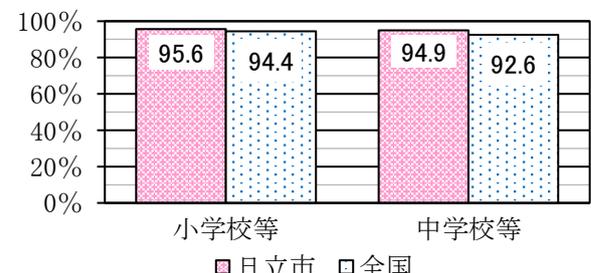
### I C Tの活用

I C T機器の活用が勉強に役立つと考えている児童生徒の割合は、全国の割合よりも高いが、小学校等において、自分で調べる場面でI C T機器を使用している児童の割合は、全国の割合よりも低い。

授業中に自分で調べる場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか。(児童生徒質問紙) ※週3回以上と回答した児童生徒



学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。(児童生徒質問紙)



### 学力向上のために

- 質問と正答率との関係 家で自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。
- 課題 情報活用能力を「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け、その育成を図るとともに、I C T機器を効果的に活用して授業を展開する。
- 改善のポイント これまでの教育実践とI C Tのベストミックスを図り、I C Tを活用した学習を充実させる。